

全酪連会報 5

2018 MAY No.632

酪農とのかけはし／福嶋智紀さん

酪農生産指導部だより／分娩前のDCAD管理と
ソイクロールのご紹介

酪政連活動報告

酪農トピックス／佐藤伸哉さん・砂子田円佳さんが全国へ！
～「第46回北海道酪農経営発表大会」～（札幌）ほか

日本酪農見て歩紀／松崎牧場 北海道北見市



www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/calftop/



全国酪農業協同組合連合会

酪農との かけはし



第13回 赤城酪農業協同組合連合会 飼料中継基地

みなさんの飼料を
つくっています。

福嶋 智紀さん

年齢: 25歳

住まい: 群馬県前橋市

略歴: 23歳の時に赤城酪連に入会し、業務部購買課に配属。

市内の商業高校を卒業し、経済学部のある東京の大学に進学し、東京で就職活動をしていたが、生まれ故郷の群馬県に戻り、周囲の勧めもあり赤城酪連に入会。祖父が酪農経営をしていた影響もあり、酪農、乳牛は身近な存在であった。

自分と仕事との関わり

祖父が酪農を経営しており、小さな時から乳牛が身近な存在でした。また、父親も同じ組合で酪農へルパーをしておりその影響も大きいです。

ちなみに弟も会員農協の畜産部で働いています。家族みんなが酪農に携わる仕事をしています。



私の職場紹介

私の勤務する赤城酪農業協同組合連合会飼料中継基地は、月産製造能力2,000tの飼料製造工場で組合員さんの個人指定配合を製造。TMRミキサーを2基と裁断型コンビラップマシーン1基を使用したTMRセンターを併設した施設となっています。

当工場は、本



会組合員さんだけでなく、北は新潟

県、南は広島県まで広い範囲の飼料

供給を行なっています。個人指定配

合は配送時に製造

を行い、在庫を持ちません。よって、

処方変更はいつでも可能です。急な給与メニューの変更に対応できるのが強みです。

また、近隣の生産者さんの自給デ

ントコインのラッピングを収穫期に行なっており、飼料供給だけでなく、



飼料生産の補助施設としても利用されています。

これから、デントコインの収穫期ですので忙しい季節になってきます。

酪農の魅力

身近に乳牛はいましたが、小さな頃はお手伝い程度で、就職するまで真剣に考えた事はありませんでした。今は、自分が調合した飼料が製品となり、酪農家さんの元に届き、牛乳や牛肉になっていることにびっくりしています。

実際、祖父の農場にも供給し、「乳牛

赤城酪農業協同組合連合会 飼料中継基地

の

1日のタイムスケジュール

8:30 ▶

勤務開始
その日の配送状況の確認
飼料製造の順序を決め、
追加分添加剤などの用意をする。
製造も平行して行う。

12:00 ▶

昼 食

13:00 ▶

飼料原料の手配を全酪連 東京支所
や配送会社とやり取り。
TMRの製造段取りと製造指示を行う。
添加剤タンクの原料を補充。
紙袋50袋を切り込みを行ったり
する。
コンテナ入庫原料の内容確認。

16:00 ▶

明日の出荷分の製造準備を行う。
在庫数チェックと片付け。

17:00 ▶

業務終了

*業務時間外でも工場は稼働しているため
時間外での呼び出しがあれば、駆けつける。

全国の酪農家に 一言!

酪農家の戸数減少という事を良く聞きます。
実際私の祖父も先日離農し、近所の生産者
さんの離農も耳にするようになりました。
しかし私の仕事である飼料生産をはじめと
する購買活動を通して酪農という素晴らしい
産業に少しでも貢献できればと思います。

仕事内容

組合員さんに供給する飼料原料の
手配と製造をしています。TMR
の製造の管理、工場の保守点検業務

の餌はこのように給与されるんだ!!」
と実感するとともに、自分の仕事の結
果が見られるのはうれしいです。
酪農の魅力は、牛たちは人間が食
べられない草を牛乳や肉に変えて、
人間に与えてくれるところだと思
います。
実際に牛たちがどのようなメカニ
ズムで牛乳を生産してくれるのかを
知らない人が多いので、酪農組合職
員として、「乳牛の魅力」として伝え
ていければ良いと思います。



をしています。
入会当初は製品を受け渡すのみか
と想像していたが、一から製造する工
場の勤務で戸惑った事もありました。
個人指定配合を中心にする赤城
工場は200銘柄以上の製品があ
り、そこに投入する添加剤の用意を
するのは私の仕事でもあります。今
では200銘柄の添加剤はほとん
ど記憶してしまいました。消費者が
直接触れるのは、製品になった「牛

今後頑張りたいこと

飼料原料の手配から製造管理、設
備の保守点検と毎日やらなければな
らない事が沢山あります。まずは目

乳」や「牛肉」ですが、そのもとに
なる牛たちの食事を作っているとい
う責任感を持って働いています。
牛たちは変化を好まない動物なの
で、特にTMRの製品と均等性(裁
断長や混ざり具合)には注意してい
ます。
就職活動中、食品関係の仕事を探
していましたが、今の仕事は牛たち
のごはんのシェフであり、希望して
いた食品関係の仕事ではないかと感
じています。

の前の日々の
ルーティンを
完璧にこなせ
るようになり
たいです。ま
た、飼料に対
する知識がまだまだ未熟なので「自
分が扱っている飼料原料にはどのよ
うな特徴があり、どのような成分が
含まれるのか?」「この成分にはどの
ような効果があるのか?」と、より
実際の酪農場で役に立つ知識を深
めていきたいです。

いまのところは、職場の敷地内の
仕事なのでゆくゆくは現場に実
際に赴き、生産者の皆様のサポー
トができるようになりたいです。



分娩前のDCAD管理と ソイクロールのご紹介

ソイクロール（陰イオンサプリメント）



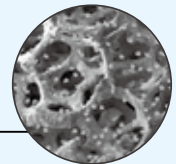
新世代のDCAD製品：ソイクロール

嗜好性の良い陰イオン・サプリメントで、吸収性（生物学的有効性）の高いCaとMgを含む一方で、塩化アンモニウムや硫酸アンモニウムなど嗜好性の悪い原料を含みません。ソイクロールを分娩前飼料に添加することにより、更なる生産性の向上を発揮します。

ソイクロールはウエット製法により、微細な塩化物イオンが製品中に均一化されているため、分離や偏りを無くし、更には嗜好性の悪い原料を使用していないことで“嗜好性の良さ”を実現しました。ソイクロールは嗜好性を維持しながら陰イオンを給与できる製品です。

ソイクロールの電子顕微鏡写真：

塩素（黄色）が製品内に均一に分散しており、飼料への均一混合や嗜好性に優れています。



ソイクロールによる DCAD調整

表1に濃厚飼料、飼料添加物、一

般的な配合飼料のミネラルを示します。これらから、硫酸マグネシウムが最も強い陰イオンであることがわかります。しかし、硫酸マグネシウムの添加量を増すにつれ、混合した飼料への乳牛の嗜好性が低下するため、一定の限界があり、嗜好性の良い陰イオン製品が必要であることが考えられます。

ソイクロールは全酪連が20年前から取り扱っているソイプラスに陰イオンと吸収性の優れたミネラルが添加された製品で、-287.70 meq/100gという強い陰イオンでありながら、嗜好性が良く、給与しやすいことが特徴です。米国のみならず世界中で20年前から使われてきました。全酪連でも過去に動物試験を行い、ソイクロールの効果を確認していました。さらなるクローズアップ期栄養の改善のために2017年よりソイクロールの試験輸入を開始、2018年2月に全国で開催された酪農セミナーでも紹介をさせて頂き、今

表1 濃厚飼料、飼料添加物、配合飼料のミネラル

	原料・銘柄	Ca	P	Mg	K	Na	Cl	S	DCAD meq/100g
濃厚飼料原料	スチーム・フレーク・コーン	0.03	0.31	0.11	0.33	0.01	0.06	0.14	-1.60
	コーングルテンフィード	0.07	1.40	0.49	1.40	0.26	0.28	0.49	8.80
	コーングルテンフィードCP60%	0.07	0.56	0.08	0.30	0.03	0.10	0.81	-44.40
	大豆粕CP 47.5（溶剤抽出）	0.29	0.71	0.33	2.36	0.03	0.05	0.48	30.30
	大麦フレーク	0.07	0.49	0.16	0.63	0.01	0.16	0.13	4.00
	ふすま	0.08	0.49	0.16	0.54	0.08	0.04	0.14	7.40
飼料添加物	硫酸マグネシウム（無水）	-	-	20.20	-	-	-	26.60	-1,659.40
	硫酸マグネシウム・1水和物（原料）	-	-	17.6	-	-	-	23.2	-1,445.08
	重曹	-	-	-	-	27.00	-	-	1,174.40
全酪連配合飼料(例)	ソイクロール	4.54	0.40	2.65	0.70	0.15	10.29	0.35	-287.70
	ドライ＆フレッシュ	1.88	0.50	1.07	1.20	0.05	0.16	0.38	5.10
	チャレンジ	0.71	0.61	0.40	1.10	0.07	0.70	0.28	8.00

DCAD = [Na+K]-[Cl+S]

年度より本格的に日本国内への供給と技術提供サービスを行うことになりました。

クローサップ期のDCAD調整の必要性

分娩後に乳熱の発生があれば、分娩後低カルシウム血症を示唆する健康上の障害（食欲減退・寝起き不良・子宮回復不良・感染性疾患など）が疑われる場合、クローサップ期のDCAD調整の検討が必要と考えられます。また、分娩後24時間前後に獣医師による採血・血液検査で血中カルシウム濃度が 8.6 mg/dl 未満であれば低カルシウム血症と判断され、クローサップ期のDCAD調整の必要があります。

ソイクロールによるクローサップ期のDCAD調整

クローサップ期中のカチオン・アニオン差（DCAD）は、ソイクロールを用いれば、容易に調整が可能です。前述したように乳熱

の発症が見られなくとも、分娩後の低カルシウム状態は、潜在的に様々な代謝上の阻害要因となっており、生産性の更なる向上のためクローサップ期のDCAD調整に取り組む価値があります。多くの酪農場でDCAD調整を初めて試すことは困難な作業のように見えることがあります。手順を踏んで取り組めば安全かつ容易に採用することができます。クローサップ期のDCAD調整には以下の2通りの飼料設計アプローチが可能です。

① マイルド（部分的）DCAD調整

現状のクローサップ期飼料のDCADを $0 \sim 10\text{ meq}/100\text{g}$ の軽度の範囲にします。尿pH測定は必須ではありませんが、尿pH低下を調べることでより効果を確認できます。

② フルDCAD調整

より積極的に低カルシウムを抑制する軽度のアシドーシスを招く方法です。DCAD値を下げるため、DCADを $-10 \sim 0\text{ meq}/100\text{g}$ の軽度の範囲にします。効果を確認

するために定期的にクローサップ牛の尿pHを測定することが必須です。尿pHが $6.0 \sim 7.0$ の範囲にあれば成功となります。尿pHが 5.5 以下の場合には過度なDCAD調整として指標となります。

尿 pH の確認ツールには電子 pH メーターや pH 試験紙が利用できますが、尿 pH 測定用の製品を推奨します。

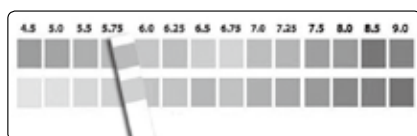
尿 pH 測定ツールのご紹介

●電子式 pH 測定器



凍結バッテリーとキャリブレーションが必要です。
尿サンプルを測定器に滴下します。

●一般的な pH 試験紙



pH 試験紙は簡単で、電子式のようなバッテリーやキャリブレーションは無用です。



これらは、尿 pH 測定用としてより正確な製品ですが、いずれもインターネット通販で購入可能なものです。

現在、全酪連の推進担当スタッフのうち、60名がAMTS、15名がNDSを用いて飼料設計をしており、飼料分析の受付やクローサップ期を含めた飼料設計に対応しておりますので、是非ご相談ください。

日本酪農 見と歩 紀

No. 230

松崎牧場
北海道北見市

次の夢に挑む 4代目経営者



▲2万キロのスーパーカウと繁さん

今回訪問させていただいた松崎牧場はきたみらい農業協同組合所属（代表理事組合長 西川 孝範）、北海道の道東オホーツク圏、いわゆる「平成の大合併」により北見市・端野町・常呂町・留辺蘂町の4市町が平成18年に合併し誕生した現在の北見市に位置します。気候は夏は30度以上、冬は氷点下20度以上になる寒暖の差が激しい地域です。

松崎繁さんは、松崎家の4代目。曾祖父が、宮城県南部の丸森町より北海道北見市の端野に入植されたのが松崎牧場のルーツです。太平洋に注ぐ阿武隈川を有する丸森とオホーツク海に注ぐ常呂川を有する北見。川沿いを走ると、



その空気は湿気を感じながらも気持ち良く、どこことなく共通する印象を受けます。

松崎家が経営に酪農を取り入れたのは、2代目の曾祖父時代からです。当時は畑作がメインで、じゃがいも、ビート、小麦等に取り組みれていたと伺うことができました。本格的に酪農に取り組んだのは、3代目。先





代の常雄さんからです。近代的酪農を目指し、昭和50年に40頭の牛舎を建設しました。昭和50年といえば、生乳の生産調整が始まる前（初の計画生産が昭和54年）で、生乳の生産量を追うことで収入アップを狙った生産者は多かったと思われます。当時の松崎家にとっても大きな投資であったことには間違いのないようです。「現在の金額だと億単位だった

のではないかと思う」との繁さんの印象です。

4代目の繁さんに経営がバトンタッチされたのは、5年前の事です。「酪農経営を引き継ぐ事に葛藤はなかった」（繁さん）と言います。幼い頃から牛舎の遊び場で育ち、根っからの動物好き（本人談）の繁さんにとっては自然な流れだった様です。後継者の中には、不安を感じる



▲ 自慢の牛群と繁さん

方が多い様ですが、と伺ったところ「特になかった。経営移譲してからもアドバイスをもたらえるし、その前からも受精師免許を取るなど、自分の興味がある内容の勉強は自由にやれていたし、吸収したものを早く実践したいというワクワクの方が強かった。両親の働く姿を見て、いいなあ、と思って育ったし、経営を引き継ぐのは自然な事でした。」と伺いました。

規模拡大から数年後に、生乳の計画生産（と



▲ 育成牛もののびと過ごしている

くに減産計画」という時代を迎え、昭和50年に大きな投資をした松崎牧場は安穏とした年月を送ってこれた訳ではないだろうと感じます。しかし、その状況下でも両親の背中を見て、将来の4代目は「いいなあ」と感じていたということです。経営は安定していたのですか？と伺うと「多分そう思う、子供だから申告の書類は見なかったけど」と教えていただきました。ご両親の大きな力を感じる事例です。

3代目時代から、安定経営を続けてきた松崎牧場ですが、経営の特徴は「牛ファースト」でした。「牛に

無理をさせないこと、ストレスを与えないことを第1義にすると、牛はその気持ちに添えてくれます。そのためには 土づくり・草づくり・牛づくり の基本を大切にすることが1番の早道です」と繁さんは語ってくれました。確かに牛舎では、立ち上がっている牛はほとんどなく、触れようとしても嫌がる牛はいない。ストレスの低い飼いが実践されていることがうかがえます。

そんな松崎牧場ですが、昨年の末頃には牛群の調子が悪い時期がありました。経営主である繁さんの表情にも疲れと心配に満ちていたといいます。これは、新しく立ち上げた協同のTMRセンターから供給されたサイレージの品質が従来の松崎牧場単独で取り組んでいた時よりも芳しくないことに由来したといえます。そんな時に本会の推進担当者が紹介したのが「プロデューサーアクティ」でした。嗜好性に優れたこの製品が功を奏し、食い込みが復活。見事に調子が戻りました。

「全酪連の推進担当者が紹介してくれる商品は、レスポンスが早い。今回も助かった。生産者にとって頼りになるのは、現場に足を運び牛を



▲ 立ち上がった Dream Feed Kitami

見てくれる人ですね」とお褒めの言葉をいただきました。しかし、普段より本会の職員を受け入れていただき、様々な意見交換をさせていただいているからこそ結果であると感じます。松崎牧場さんに改めて御礼申し上げます。

繁さんは、将来を見据えて5戸協同のTMRセンターを立ち上げました。平成28年3月に設立した「合同会社 Dream Feed Kitami」です。

平成26年6月に設立についての意向確認より始まった動きは検討委員

会等による種々調整と先例の現地視察等を経て平成28年3月30日に法人登記され、繁さんは副代表に就任されました。

TMRセンターを稼働して1クール（1年）が経過しました。様々な意味で「ギャップ・へだたり・違い」を感じる1年となったようです。

収穫作業の外注を例に考えてみると、オーナーにとって良い畑（結果的に）自分の牛群が多く、生乳を生産する助けとなる、ですが、収穫の外注作業者にとってみれば、作業効率こそ全て、となります。オーナーにとって最高の畑は作業者にとって最高の畑、とはならないのです。

協業するオーナーの間でも、収穫



▲ TMRセンターの荻野生産部長

される粗飼料の品質が高い畑・そうでもない畑・品質が良くない畑とバラツキがあり、品質が良くない粗飼料を多く含んだサイレージにあ

たった場合などは、牛群が悪影響を受けてしまうという事態も想定されます。これまで良質な粗飼料に恵まれてきた経営ほど良くない粗飼料の悪影響は大きいかもしれません。

繁さん自身も「センターの話が出るまでは、畑のやり方を他の経営と比較することなどなかった。やっぱり各畑の土壌分析や算出する草の成分分析は事前に行う必要があった」と振り返り「将来的には、畑の集約・集積を行っていかねければならないけれど、その前段階がたくさんある」と将来を見つめます。

現在、協業設備の立ち上げはよく話題となりますが、現行のギャップ・差異の細やかな把握とそれに対する方策や解消のための展望を策



▲ 繁さん、葉月さん、心温くんと5月の空

定していくことも同時に急がなければなりません。協業施設の運営にはこれまで述べていたように様々な細かい調整が必要になり、現場はその調整に忙殺される可能性があります。その結果、設立当初の目的・メリットがわきに追いやられてしまった時、協業仲間の離脱・分裂の危機が訪れるのではないのでしょうか。危機を追いやるには、基本に還ることが必要です。

最後に繁さんから若い生産者へメッセージをいただくことができました「酪農は1日1日結果の出る夢のある仕事です。仕事でも趣味でも自分に興味を掘り下げて豊かな人生を歩んでほしいです」。

札幌
支所発佐藤伸哉さん・砂子田円佳さんが全国へ！
～「第46回北海道酪農経営発表大会」～

3月27日(木)、札幌市の「京王プラザホテル札幌」で、第46回酪農経営発表大会（北海道酪農青年女性会議主催、池田辰実委員長）が開かれ約60人が参加しました。

今年度、酪農経営発表を行ったのは足寄町の佐藤伸哉さんです。会社員を経てUターン就農後、放牧地と兼用地の細やかな管理による集約的放牧経営と、NZ種雄牛の精液を利用した育種改良に積極的に取り組んできました。「地域の農の発展は町の発展」と考え、今後は新規就農希望者をスムーズに就農へ導くための仕



▲ 佐藤伸哉さん

組みを構築したいと考えています。自らが取り組んできた放牧についても「あくまでも手段の一つ」と言い切り「これから就農・後継・規模拡大etc……。個々にあった酪農経営は必ずあります。探す時間を見つけてください」と参加者に呼びかけ発表を締めくくりました。

続く意見・体験発表では広尾町の砂子田円佳さんが発表されました。砂子田さんは広尾町で新規就農されたご両親のもと牛舎を遊び場として子供時代を過ごし、「酪農もアリ」な学生生活の後に心機一転カナダへ渡ります。女性のボスが仕切る牧場で研修し、現地の4Hクラブ等で大いなる刺激を受けて帰国しました。帰国後は大規模経営の実家で過ごしていましたが、新しく牧場立ち上げのチャンスに恵まれ「やるやる」と飛び込みます。紆余曲折の結果、全ての作業を1人でこなすこと

になり、苦勞も喜びも十分に味わい尽くします。牧場が軌道にのり経営のプレッシャーが大きくなる中、心のよりどころとなったのが地元の女性たち。励ましのエールや気晴らしにずいぶん助けられました。その経験を経て、現在は酪農に関わる女子なら誰でも参加できるSAKURA会、酪農音頭を作った豊栄会など種々の活動に取り組んでいます。さらにこれからは地元の広尾牛乳を作り、地域の子供の食育に役立てたいと野望を燃やす砂子田さん。地域と世代の大きな架け橋としての意見体験を発表し、参加者を勇気づけました。



▲ 砂子田円佳さん

発表に続く講演会では、帯広畜産大学講師の瀬尾哲也先生が「アニマルウェルフェア認証システムの概要」をテーマに講演され、先進地であるヨーロッパと我が国の現状を紹介し、今後の方向性を探りました。参加者からは「命の輪廻を司る産業である酪農生産者がもっと注視していかなければ内容だと感じた」「現段階で証明されているメリット以外にも多くの効果があると思うし、それを証明してほしい」との感想が寄せられていました。

審査公表では、いずれの発表も素晴らしく、全国大会（7月に広島市で開催）の結果も十分に期待できる内容と評価いただきました。

会場参加者の期待を込めた大きな拍手で、北海道酪農青年女性会議は、佐藤さん砂子田さんのお2人を代表として送り出すこととしました。（N.F）



▲ 会場の様子



▲ 瀬尾講師による講演会



▲ 池田委員長による開会挨拶

▼ 左) 本部博久さん
右) 坂本龍一さん

福岡 支所発

「第47回 九州酪農青年女性酪農発表大会」 開催される

4月18日(水)～19日(木)の両日、九州酪農青年女性会議(小園千弘委員長)、全酪連福岡支所共催の「第47回 九州酪農青年女性酪農発表大会」が、大分県大分市の「レンブラントホテル大分」にて開催され、九州・沖縄の各地から237人ももの酪友が集まりました。

開会式では、小園委員長の挨拶の後、来賓の農林水産省九州農政局生産部畜産課から河内野慎也課長、大分県農林水産部畜産技術室から茶園崇史室長、大分県酪農業協同組合から清末健一組合長がご祝辞を述べられ、発表に移りました。



▲ 小園委員長

酪農経営発表の部は、森田清隆さん(福岡県)が河川敷草地を活用した低コスト自給粗飼料生産を軸とした堅実経営を、本部博久さん(宮崎県)は自家繁殖成績向上への様々な取り組みによる、地域全体へ貢献する経営を、植島潤一さん(熊本県)は購入飼料型経営ながら良質な堆肥販売や先進機器を積極的に導入したゆとりある酪農経営をそれぞれ発表されました。

また、酪農意見・体験発表の部では、宮下徹さん(大分県)、平田あゆみさん(沖縄県)、高田直也さん(福岡県)、坂本龍一さん(熊本県)、中島初枝さん(佐賀県)、西ノ村高志さん(鹿児島県)、松谷茜さん(長崎県)の7名が、それぞれの前向きで熱意溢れる意見・体験発表と家族や周囲の支えに対する感謝の言葉を披露され、それに対し会場から大きな拍手が送られました。

交流会では、地元大分県が世界に誇る日本文理大学チアリーディング部「ブレイブス」によるパフォーマンスが披露されました。目の前で繰り広げられる圧巻の演技に会場が沸き立つ中、大分県酪農業協同組合の

つゆき
築城圭一郎管理部長より、ご挨拶と牛乳での乾杯が行われ、交流会が賑やかに開始されました。カラオケ大会では各県より自慢の美声(!)や踊りが披露されるなど大いに盛り上がり、会場では各地の酪友との出会いや、再会に笑顔が溢れかえりました。

2日目は、発表者への質疑応答の後、審査講評、褒賞授与が行われ、酪農経営の部の最優秀賞(九州農政局長賞)には、「わくわくする酪農経営は地域と共に!」と題し、口蹄疫の被災による全頭処分から力強く経営再開されるだけでなく、自家繁殖成績の向上への様々な取り組みを通じ、地域の和牛生産を含む家畜生産活動の活性化につながる地域貢献型経営に取り組まれた本部博久さんが選出されました。田中正仁審査委員長((独)九州沖縄農業研究センター畜産草地研究領域 主席研究員)は、「審査においては自家の繁殖成績の向上が、地域の和牛生産を含めた家畜生産活動の活性化に大きく貢献している点を高く評価いたしました。」と講評を述べられました。

酪農意見・体験の部の最優秀賞(九州農政局長賞)には「200%の復興を目指して」と題して、熊本地震の苦難に負けず復興を目指す坂本龍一さんが選出されました。内ヶ島賢勇審査委員長(九州酪農青年女性会議 顧問)は、「平成28年4月の熊本地震にご自宅が被災されるなど、大きな困難に見舞われましたが、それを機にご家族と経営改善に取り組み、ゆとりある酪農経営を実現されました。今後も200%と言わず無限大に復興されることを期待されます。」と講評を述べられました。

本部さん、坂本さんは、7月の全国大会で九州酪農青年女性会議代表として出場されます。(M.A)



▼ 参加者の皆様と集合写真



▲ 発表者の皆様



▲ 日本文理大学チアリーディング部「ブレイブス」

酪政連活動報告

日本酪農
政治連盟

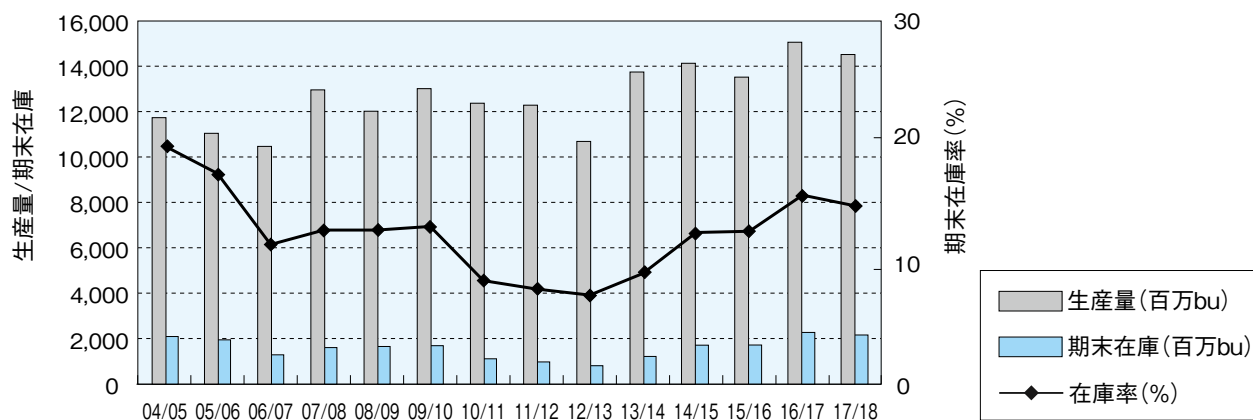
平成 30 年 1 月～ 4 月

1/15	三役会議を開催(於:酪政連、事務所) - 平成 30 年度の活動方針について - 平成 29 年度収支実績見込みについて を協議	3/25	第 85 回自由民主党大会に参加 (於:グランドプリンスホテル新高輪) (委員長、幹事長)
2/16	事務局長会議を開催(於:参議院議員会館) - 加工原料乳生産者補給金制度の改革について (農林水産省より) - 酪政連平成 30 年度通常総会について を協議	3/31	東京都選挙管理委員会に対し 収支報告書(平成 29 年 1 ～ 12 月分) を提出
2/22	監査会を開催(於:全理連ビル) 3 月開催予定の総会資料を 本連盟の監事に提出し、監査を実施 (会計責任者、監事、幹事長他)	4/5	三役会議を開催(於:酪政連、会議室) - 委員長引き継ぎについて - 平成 31 年度要請書(案)について を協議
3/7	通常総会を開催(於:自由民主会館) 第 1 号議案 平成 29 年度運動報告並びに収支決算承認の件 第 2 号議案 平成 30 年度運動方針並びに収支予算承認の件 第 3 号議案 平成 30 年度会費賦課方針決定の件 第 4 号議案 任期満了に伴う役員改選の件を上程し、全議案共に原案どおり可決承認される 総会後の中央常任委員会において役員を互選する 新執行部は以下の通り 委員長(新任) 大槻 和夫 副委員長(再任) 佐藤 哲(会計責任者) 副委員長(再任) 井上 久 副委員長(再任) 草場 哲治 副委員長(新任) 柴田 輝男 幹事長(再任) 笛田 健一		

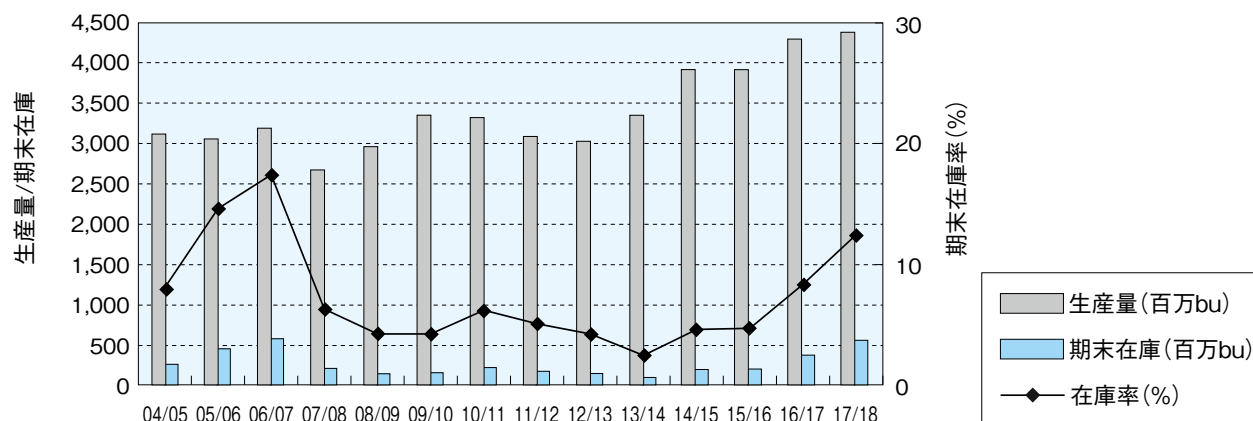


		16 / 17年産	17 / 18年産
4月10日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積(百万エーカー)	94.0	90.2
	単 収(ブッシェル/エーカー)	174.6	176.6
	生 産 量(ブッシェル)	151億4,800万	146億400万
	需 要 量(ブッシェル)	146億4,900万	147億6,500万
	期末在庫(ブッシェル)	22億9,300万	21億8,200万
	在 庫 率	15.7%	14.8%
トウモロコシ 相場動向	3月末から4月上旬のシカゴ相場は、18/19年産トウモロコシの作付意向調査、米中の貿易戦争関連のニュースに左右された展開であった。その後も中国の米国産マイロに対する実質的な輸入規制報道があり、引き続き米中間の動向が、相場に影響を与えると予想される。また、米国産トウモロコシの作付が開始され、本格的な天候相場に入りつつある。現状、問題のある遅れはないが、作業状況にも注意が必要である。		
大豆粕相場動向	米国産大豆は、前月に続き搾油向けが上方修正され、期末在庫は下方修正された。市場予想平均の5,740万ブッシェルを下回ったため買いの展開となったが、利益確定の売りに押され、上げ幅は限られた。中国のブラジル産大豆の買付は加速気味であるが、シカゴ定期の下落、レアル高も相まって農家売りは少ない。中国側で発表したUS大豆輸入への追加関税導入懸念が煽っている。		
糟糖類	【一般フスマ】 4月の輸入小麦の政府売り渡し価格が上昇する見通しから、値上げ前の小麦粉引取り需要が増加。それに伴い晩砕量も増加していることから需給は適正に推移している。		
	【グルテンフィード】 国内スターチメーカーではこれからの需要期に向け工場稼働率が上昇している。発生量も増加しており、需給は適正に推移している。		
海上運賃	パナマックス型市況は、米中貿易戦争の懸念から鉄鉱石価格は弱含みとなり、荷動きも鈍るのではないかとの見通しから軟調に推移している。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

平成30年4月

北米コンテナ船 フレート	大手海運会社の2017年の経営状況はGRI（海上運賃一斉値上げ）による運賃水準の回復および世界経済の回復に伴うコンテナ輸送量の増大により2016年と比較すると大幅に改善しています。一方で、海上運賃の水準は歴史的にみると依然として低水準であり、今後も海上運賃は強含みに推移していくと予想されます。
ビートパルプ	【米国産】新穀の作付けは、アイダホ州など早い地域で3月末よりスタートしました。日本向け主力地域であるミネソタ州やノースダコタ州では例年通り4月中旬からスタートの見込みですが、今冬は平年よりも気温が低かったため、多少遅れる可能性があります。今後、大きな天候の影響がなければ5月中旬には全米各地で作付けが終了する見込みです。現時点では、総じて土壌水分は特に問題はなく、作付けの増減に影響を及ぼす要因は特に見当たらない状況で、生産量の変動はごくわずかとなる見込みです。
アルファルファ	【ワシントン州】米国内向け、輸出向けともに需要は引き続き堅調で、旧穀の在庫は昨年に比べて少なく、産地在庫については低級品を除きほぼ成約済みの状況となっています。特に米国内の酪農家および肥育農家からの引き合いが強く、産地の繰越在庫はほぼない状態で新穀に移行する見込みです。18年産の作付面積については、17年産の相場低迷を受け、5～10%程度減少する見込みです。現在のところ、アルファルファの生育は順調に進んでおり、例年並みの5月上旬～中旬頃から1番刈の収穫が始まる見込みです。
	【オレゴン州】18年産の作付面積は、17年産と比較して大きな変動はない見込みです。当地では生産農家の世代交代が進んでおり、引退する生産農家の既存圃場を買い取って規模を拡大している事例が増えてきているようです。
	【カリフォルニア州】カリフォルニア州南部、インペリアルバレーでは1番刈の収穫が進んでおり、早い圃場では2番刈の収穫も始まっています。1番刈は通常、水分含量が高く、輸出向けに適さない品質のために主に米国内向けとして消費されますが、高成分の良品が多数収穫されていることから、特にサウジアラビアが自国の需要量を賄うために、高品質から低品質なものまで積極的に買付を行っており、産地相場を牽引しています。カリフォルニア州中～北部では、アルファルファの作付面積は減少する見通しです。カリフォルニア州全体で見ると、水源となる山間部の積雪量は例年並みであったものの、平野部では冬期の降水量は少なく、灌漑に使用できる農業用水も将来的には減少するものと見込まれています。また、当地では引き続き生産農家にとって利益が多いアーモンドやピスタチオなどのナッツ類への転作が増えており、これらの要因によりアルファルファの作付面積が減少していると思われます。
チモシー	【米国産】17年産の産地在庫は、低級品については一部未成約のものもあるようですが、上級品についてはすべて成約済となっており、追加買付は難しい状況です。18年産については、昨年から産地相場の高騰を背景に、作付面積は前年比10%程度増加する見込みです。作付面積が増加していることから、高止まりしている産地相場についても、新穀については軟化することが期待されます。日本および韓国からの需要は、これまでの輸入過剰の影響を受け、2月の輸入量は昨年同月比で大きく減少しています（日本：19,353 t/月、前年同月比：83%、前月比：106%）。今後、新穀に向けて産地および国内の需給動向を慎重に見極めていく必要があります。
	【カナダ産】日本および韓国からの需要は引き続き堅調であり、産地在庫はすべて成約済となっており、今後は新穀まで成約済みの在庫を繋いでいくこととなります。カナダ産チモシーの主要な積出港であるバンクーバー港では引き続き荷役作業の遅れが発生しており、また、冬場の荒天の影響も相まって、本船スケジュールの遅れや船積みスペースの不足感が続いている状況です。このため、船積み遅れが通常よりも多く発生している状況です。
スーダングラス	日本からのスーダンの需要は引き続き堅調です。17年産の産地在庫については、上級品についてはすべて成約済、中～低級品については若干未成約の在庫はあるようです。このため18年産は、前年と同様、繰越在庫がほぼ無い中でスタートとなりそうです。4月2日付の作付面積は、前年同月比156%と増加傾向となっています。小麦の相場が低迷しているため、スーダンの作付けに切り替えている圃場が増えているようです。いわゆる早播きスーダンの作付面積が増えていることから、例年よりも上級品の発生割合が増えることが期待されます。一方で、種子の供給力がやや不足していること、新穀の相場次第では1番刈で生産を中止する圃場も一定量発生することから、最終的な作付面積は昨年並みの43,000～45,000エーカー程度になるとの見方も出ています。
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 日本および韓国からの需要は引き続き堅調に推移しています。17年産の産地在庫についてはすべて成約済で、新穀の出荷待ちといった状況です。3月15日付の作付面積は前年同月比28%の増で、増産が期待できそうです。現時点では新穀の生育は順調に進捗しており、早い圃場では4月中旬頃から収穫が始まる見込みです。作付面積が増加することで産地相場が軟化することが期待される一方、日本および韓国からの新穀への過剰な引き合いが相場の高騰を招く恐れがあり、今後の産地相場を注視していく必要があります。
ストロー類	日本および韓国からのストロー需要は引き続き堅調に推移しています。年明け以降、韓国の自給粗飼料が豊作であった為、新穀以降の相場軟化を回避したい生産農家が、利益確保を目的に各サプライヤーへ在庫を売り始め、成約が進んだことで、今後の追加買付は難しい状況です。このため、供給余力は限られた中で堅調な需要を背景に産地価格は、高止まりのまま新穀まで推移していく見込みです。
オーツヘイ	日本、中国および韓国からの需要は引き続き堅調で、各サプライヤーとも出荷は順調に進んでいるようです。2017年の中国向け豪州産オーツヘイの輸出量は30万tを超え、日本に次ぐ数量となっています。単月毎で見ると、日本より輸入量が多い月も出て来ています。現在のところ、中国からの需要は安価な中～低級品に集中する傾向があり、日本からの需要とは棲み分けができてきている状況ですが、今後の動向については引き続き注視していく必要があります。産地相場については、北米産の新穀がスタートする前で大きな材料も無いことから、値動きは限定的と言えます。



乳牛産地情報

平成30年5月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	47~57	→	札幌管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計100.8%、累計で100.8%、苫小牧管内月計で99.5%、累計で99.5%の実績となっております。5月の初妊牛動向といたしまして、7月~8月上旬分娩の腹が中心となります。F1腹がメインとなりますが、雌雄選別腹も出てくるものと思われます。4月開催の同地域の乳牛市場が弱含みで動いたことや、夏分娩の腹となってきたことから、5月はやや弱含みで推移するものと思われる。育成牛は引き続き道内各地より同地域への市場購買が続いていることから、横這いで推移するものと思われます。
	初妊牛	80~90	⇐	
	経産牛	45~50	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	60~70	→	根釧管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で102.0%、累計で102.0%、中標津管内月計で102.4%、累計で102.4%の実績となっております。5月の初妊牛動向といたしまして、7月下旬から8月分娩の腹が中心となってきます。3月にやや落ち着いた管内乳牛市場相場は、道内外の導入需要が旺盛な事により4月になり再び上昇しました。今後は盛夏時期の分娩牛が中心となることから通常であれば弱めの展開となりますが、梅雨明けまでの分娩腹の引き合いは強いままである事が見込まれることから相場は横這いで推移するものと思われます。相場の高騰が続き予算の確保等ご苦労をなさっているとは存じますが、導入予定がございましたら早め早めのご連絡をお願いいたします。
	初妊牛	85~95	→	
	経産牛	60~70	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	55~65	→	帯広管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で104.3%、累計で104.3%の実績となっております。5月の初妊牛動向といたしまして、7月~8月分娩の腹が中心となります。F1腹がメインとなりますが、雌雄選別腹、和牛受精卵移植腹も購買は可能です。新年度となり導入助成等が出る地域が増えてきており、4月の同地域の乳牛市場は高値を維持したまま推移しました。このような助成による導入や道内外のメガ・ギガファームの導入が続いており、5月初妊牛相場も横這いで推移するものと思われます。導入助成には後継牛確保を目的としたものもあり、通常ホルスタイン腹や雌雄選別腹が対象となっており、引き合いが強くなっています。
	初妊牛	85~95	→	
	経産牛	55~65	⇐	
道北管内	育成牛(10-12月令)	50~60	→	道北管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で100.0%、累計で100.0%、北見管内では月計で101.6%、累計で101.6%の実績となっております。5月の初妊牛動向といたしまして、7~8月分娩の腹が中心の動きとなります。先月は新年度が始まり道内外の導入需要が高まったこともあり、雌雄選別腹・F1腹共に乳牛市場相場の高騰が見られました。今後は夏分娩の牛が出回る時期となりますが、引き続き導入需要が続く見込みとなっており、相場は大きく下げることなく動くと思われます。
	初妊牛	88~95	→	
	経産牛	50~60	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	55~65	→	道内の4月中旬までの生乳生産量前年比は102.3%、累計で102.3%の実績となっております。5月の初妊牛動向といたしまして、7~8月分娩予定の牛が中心となります。例年であれば夏分娩となる為、都府県の初妊牛導入も減少し初妊牛相場も落ち着く時期ではありますが、道内においては、経営環境が好調なことから生乳生産意欲が旺盛となっており、道内需要は高まっております。また道内外の大規模農場の導入意欲が依然として高いことから、5月の初妊牛相場を大きく下げる要素は少なく横這いで推移するものと思われます。5月下旬には放牧も始まるため、初妊牛導入のご予定がございましたら、お早めのご注文を宜しくお願いします。
	初妊牛	85~95	→	
	経産牛	60~70	→	

今月の表紙

今月の表紙は、「第8回酪農いきいきフォトコンテスト」(第46回全国発表大会にて開催)で応募頂いた作品「搾りたてだよ。いっぱい飲んでね。」(長崎県 松谷茜氏 撮影)です。



編集後記

- ポカポカ陽気が気持ちいい季節になりましたね。
- 7月19日~20日の全国酪農青年女性酪農発表大会in広島への各会議からの発表者12名が決定!皆さんの発表内容については来月号でお伝えする予定です。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

平成30年5月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 5月号 No.632

●編集・発行人 川辺昭司

●発行 全国酪農協同組合連合会

〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号

TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



動いている牛

武内保育園(九州)6歳 山口 陸斗

今月の入賞作品は…

武内保育園(九州)6歳の山口 陸斗さんの作品です。

「動いている牛」と題された山口陸斗くんの作品は、体が顔であって、顔が体であるような牛さんがかわいらしいです。色やかたちを目で追うと画面にリズムや調和が感じられてくるのが不思議です。子供らしい無心さが現われていると思います。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第44回らくのうこどもギャラリー」で全国720点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議

第 47 回

全国酪農青年女性 酪農発表大会

平成30年

7/19^木 ▶ 20^金

日 程

7月19日^木

- 13:00~13:50 開会式
- 13:55~16:15 酪農経営発表
- 16:15~16:25 らくのうこどもギャラリー表彰式
- 16:40~18:15 酪農意見・体験発表
- 19:20~21:30 懇親会

7月20日^金

- 9:00~ 9:10 いきいきフォトコンテスト表彰
- 9:10~ 9:35 酪農経営発表質疑応答
- 9:35~10:00 酪農意見・体験発表質疑応答
- 10:15~11:35 審査講評・表彰式
- 11:35~11:40 新旧役員紹介
- 11:40~11:50 閉会式

大会参加費

1名 **13,000 円** (大会・懇親会まで)

※宿泊につきましては、各地域会議事務局にお問い合わせください。

大会会場・アクセス

◆ 会場・宿泊

「グランドプリンスホテル広島」

〒734-8543

広島県広島市南区元宇品町 23-1

TEL. 082-256-1111



in 広島



◆ アクセス



- 無料シャトルバス
広島駅から約30分
- 鉄道の場合
広島駅からタクシーで約20分
広島駅から広島バスで約40分
広島電鉄 元宇品口電停から徒歩約15分
- 車の場合
広島港から車で約3分
広島空港から約60分
- 飛行機でお越しの場合
広島空港から広島駅まで約45分
- 船の場合
宮島よりホテル前桟橋まで高速船で約26分

大会事務局

全国酪農青年女性会議

〒108-0014 東京都港区芝 4-17-5 全酪連 総務部 組織対策課 内 / TEL. 03-5931-8003